

博物館活動整備事業費

事業評価個票 (事業実施:平成 30 年度)					部局名	教育庁		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ1 郷土愛を育み未来を築く子育て支援・多彩に活躍する人づくり						
	施策	施策4 多種多様な能力発揮の促進						
	目的	年齢や障がいの有無、国籍を問わず、一人ひとりが自らの個性や意欲、能力をあらゆる分野で発揮し活躍できる社会をつくる。						
	目標指標 (R2)	-		-				
	策定時の実績	-	現状	-	主要事業	生涯学習の振興		
事業名	博物館活動整備事業費			担当課・担当	文化財・生涯学習課(日本遺産・文化財活用担当)			
事業開始年度	平成8年度			事業終了(予定)年度	未設定			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	地域の教育力を高める生涯学習環境の充実を図るため、県立博物館機能の強化を図り、魅力ある博物館活動を展開する。本県の自然や歴史、文化を学ぶ機会を提供することにより、郷土に愛着を持ち、郷土とつながる人材の育成に寄与する事業を展開する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	県民に親しまれる「開かれた博物館」「魅力ある博物館」を目指し、展示品等の説明等を行う解説ボランティアの配置や親子で体験できる自然学習会の開催、体験型展示(触る、聞くなど五感を活用した展示)などを取り入れた企画展を開催する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:県直営の施設であるため。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	ボランティアとの協働	824	828					
	博物館の機能強化推進	686	686					
	インバウンド推進プロジェクト	7,542	0					
	企画展(プライム企画展)の開催	0	2,900					
	計	9,052	4,414	0	0	0		
	財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	5,791					
	繰入金							
	その他特定財源	951	648					
	一般財源	2,310	3,766					
	計	9,052	4,414	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	プライム企画展開催時の一日当たりの入館者数	活動実績	人	159	255			
		当初見込み	人	150	170	170	170	
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	プライム企画展アンケートにおける満足度 4段階評価のうち「とても良かった」「良かった」の割合	成果実績	%	96.0	95.6			
		目標値	%	93.0	95.0	95.0	95.0	
		達成度	%	103.2	100.6			
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

県立博物館では、厳しい財政状況が続いているため新たな博物館資料の購入は難しいが、国宝土偶「縄文の女神」を最大限に活用し、また、寄贈や寄託を受けた資料も活用しながら、見せ方を工夫し展示を行っている。しかしながら、1度来館した者にとっては、博物館資料がほぼ変わっていない常設展示の状況では、再度展示を見に来たいという理由がない。

そこで、山形の宝である貴重な資料をもとにプライム企画展を開催し、常設展示とは異なる郷土の自然や歴史、伝統文化、先人たちの業績に対する理解を深める機会の提供を行い、1度来館した方にも再度来館いただけるような新しい学びの機会を提供する。

そのため、活動指標は企画展開催期間における1日当たりの入館者数を設定し、普段よりも3割増の入館者を目標とした。

また、来館者が「県博に来てよかった」「また県博に来たい」と言っていただけの魅力ある博物館を目指していることから、成果指標は来館者アンケートの満足度を設定した。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	・「第6次山形県教育振興計画」(以下、「6教振」という。)では、「活力あるコミュニティ形成に向け、地域の教育力を高める」ため、生涯学習環境の充実を図ることとしている。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	・魅力ある展示により本県の自然や歴史・文化を学ぶ機会を提供する県立博物館は、学校教育のみならず地域の情報発信拠点であり県民の生涯学習の場として重要な役割を担っており、郷土愛の醸成や人材の育成に寄与するものである。
	目標水準は妥当か。	A	・期間限定のプライム企画展の来館者数を増加させることで、普段の来館者数の底上げも期待される。
	期待する成果が得られたか。	A	・達成度は100.6%。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	・アンケートの結果等を分析し、よりよい企画の立案を図っている。
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	・当初見込み170人に対し、実績は255人。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	・経費については、事業の実施に必要な不可欠な費用に限り支出し、限られた予算の効率的な執行を図っている。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	・「山形県立博物館条例」に基づき、来館者から入館料を徴収している。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	・他部局等で類似事業なし。	
の役割分担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・県が運営する県立博物館が実施する事業であるため、市町村、民間等に委ねることはできない。
今改善の課題等	・引き続き「山形を知るスタートライン」として本県の自然、歴史、文化の魅力を広く発信するとともに、地域資源を生かした多様な学習機会の創出に取り組んでいく。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない